「アメリカンスクール」について

安　部　奈　々

日本とアメリカでは多くの違いがある。その違いの中から、特に興味のある「学校」について日本とアメリカとを比較し、良い点や見習うべき点、また改善すべき点を考えていきたいと思う。

日本の学校とアメリカの学校との一番の違いは、学校制度である。日本では全国の小・中・高校共に、「６－３－３制」と同じ区分であるが、アメリカでは州や市、また公立か私立かによって異なってくる。なぜ日本のように全国統一ではないのかと言うと、アメリカには全５０州に共通した国の教育指導要領がない為である。それぞれの州が独自に教育レベルや計画を開発してきたので、学校の質や設備、学科など州によって大きな違いが出てくる。

日本では４月から新学期が始まるのに対し、アメリカでは９月から始まる。また、日本のように始業式はなく、その日から授業が始まる。アメリカでは個人の能力によってクラスが分けられる。なぜなら、アメリカでは生徒の能力と興味に応じた教育を行うことが、教育上の平等と考えられているからである。能力別にグループに分け、それぞれが自分に合った教科書に沿って勉強を進めるということもあるし、算数や英語だけは上の学年と一緒に勉強をするということもある。なので、中・高生で大学に入る生徒もいれば、逆に小学生でも「留年」をする生徒がいるのである。

勉強以外のことを見ても日本との違いが出てくる。日本の学校は地域によっても異なるが、昼食はお弁当か給食である。しかし、アメリカの学校では家からお弁当を持って行くことも出来るし、学校のカフェテリアで買って食べることも出来る。高校生になり車の運転が出来るようになると、家に戻って昼食を取ったり、学校外の店に食べに行くことも出来る。日本の給食のように全員が同じ物を食べないのには理由があり、食品アレルギーやベジタリアンの子供たちの事を考えてのことである。

このように、全てが自由に感じていたアメリカの学校生活も、深く見ていくと私達の知らない様々な事が隠れていることがわかった。個人の能力に応じた授業は、日本も見習うべき点だと思う。そして何よりも羨ましい事は、自由であることの反対側には常に自分への責任があるということを、小さいうちから身に付けられる環境にあることである。

（指導教員　中村　敦志）